



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004. 4. 21 No. 27 - 93

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会

〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

宇宙線問題、国会で追及される

文科相「1、2年のうちにガイドラインを作りたい」

3月1日の衆議院予算委員会第4分科会で、共産党の吉井英勝議員が航空機乗務員の宇宙線被ばく問題を取り上げ、政府を追及しました。これに対し文部科学省の小田大臣官房審議官は「現在、放射線医学総合研究所（放医研）などで宇宙線についての詳細な調査を行っている」「放医研が平成17年度までに宇宙線の被ばく防護に関するガイドラインを検討する。それを受けて放射線審議会で議論を行い、その上で関係府省と連絡をとりながら十分対応したい」などと答えました。また、河村文部科学大臣は議員の質問に対し「国際動向や被ばくの実態調査などを踏まえ、厚労省や国交省と連携しながら、1～2年のうちにきちんとしたガイドラインを作りたい」などと答弁しました。

客乗連と共に厚労省担当者との会談

厚労省担当者「この問題について今後対応していく」

日乗連は3月8日、客室乗務員連絡会（客乗連）と共に厚生労働省を訪れ、宇宙線問題で担当者と会談しました。この会談で私たちは、宇宙線被ばくの実態とその影響、被ばく防護についての国際機関や各国の取り組みの状況などを紹介し、その上で、2月6日に私たちが文科省、厚労省、国交省に行なった「宇宙線被ばく防護要請」を説明し、その実施を求めました。これに対し、労働基準局安全衛生部の担当者は宇宙線についての現状や問題点に理解を示した上で、「この問題について文科省や国交省と連携しながら取り組んでいく」と答えました。

以上のように、私たちが2月に行なった3省への「要請」以降、行政は1990年の国際放射線防護委員会の勧告以来14年間もこの問題を実質上放置してきた姿勢を転換し、「宇宙線被ばくは放置できない問題」と位置付けて対応しており、改善が必要な問題であることも認めています。

私たちはこのような行政の動きを加速させ、そして私たちの要求を実現させるため、今後も更に取り組みを進めていきます。

